

【伊藤総領事メッセージ 2020年7月】

7月7日の七夕に向け、当館がオンラインで開催したバーチャル七夕まつり「星に願いを」のイベントは、多くの方々からの願い事を預かり、成功裏に終了いたしました。参加いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

また、同じ7月7日、私は日本への帰朝を命じられました。在トロント日本国総領事としての任務を終え、8月半ばに日本に帰国することになります。離任の御挨拶は改めて次回に申し上げますが、トロントから出発するまで、皆様からの御支援、御鞭撻を引き続きよろしく願いいたします。



この1か月間、オンタリオ州内の新型コロナウイルス感染者数は基本的には低下傾向を維持しています。経済再開の第3ステージに移行した地域もあり、州内の緊急事態宣言の解除も近づいていると見られるなど、明るい雰囲気に戻ってきました。当総領事館付近では、朝の通勤時間に車の渋滞も見られるようになり、夕方には営業を再開したレストランのパティオで食事を楽しむ人々の姿も増えています。

しかし、国境を挟んだ米国での最近の感染拡大の様子を踏まえ、カナダでは慎重な政策をとっていることが伺えます。一般の人々が入り出る屋内や公共交通機関でのマスク着用の義務化もその一つです。いまだに有効なワクチンや治療薬が存在しない状況では、感染予防のための措置として、三密(密集、密接、密閉)の回避と、頻繁な手洗いの励行を継続されるようお願いいたします。この日本発の「三密」が、最近ではWHOやトロント市の保健官によっても使われていることは、少し誇らしく思われ、世界各地での感染防止にこれが少しでも役立ってくれればと願うばかりです。

こうした中、オンライン上でのリモート演奏で作られたビデオが最近2本私のところに送られてきました。

一つは、オンタリオ州内の日系コミュニティの人々が中心になって作成した「プロジェクト・スキヤキ・カナダ2020」です。海外では「スキヤキ・ソング」として知られる坂本九さんの名曲「上を向いて歩こう」を、トロント周辺に在住する日系コミュニティの有志がそれぞれ様々な楽器で演奏したものをつないで曲に仕上げていると、英訳された歌詞も字幕で流れます。知人の顔触れも何人

も見られ、人々を勇気づけるためのプロジェクトに参加して下さっているのだと、心が温まりました。英訳された歌詞は、新型コロナウイルスで家族や大切な人をなくされた方々にとって、涙を流すような辛い思いと共に前向きに進んでいく勇気を得られるものになってくれるであろうと思われました。



上を向いて歩こう by Sukiyaki Project Canada 2020
https://www.youtube.com/watch?v=_6Aan0ISnaI

もう一つは、2018年に日加修好90周年を記念してカナダ各地で演奏会を行い、当地でも和太鼓を演奏された林英哲氏からのものです。日本の人気和楽器演奏者6名による「春よ、来い」のリモート演奏と、林英哲氏からのメッセージが届きました。このリモート演奏の発起人は、やはり昨年当地を訪問し、ピアノと津軽三味線のデュエット「AGA-SHIO」で津軽三味線を演奏してくれた上妻宏光氏です。この2年間にトロントで演奏会を開かれ、ミシサガ市のジャパン・フェスティバル・カナダでも演奏された2名が参加したこのプロジェクトは、大トロント圏に住む我々にとって特別の応援曲のように思えます。

林英哲氏からのメッセージは以下のとおりです。

みなさん、ご無事でしょうか。

新型コロナウイルスの影響で、私達も演奏ができなくなりましたが、元気です。

この度、やっと初めてリモートで、日本の親しい演奏家たちと共演できました。

日本の楽器の声、言葉で、ウイルスと闘う世界中の人々を応援します。

また皆様に元気で会える日が、1日も早く来ますように。

「春よ、来い(素晴らしい日よ、1日も早く来い)」という曲です。

どうかまたお元気でお会いできれば、と願います。

2020. 7. 1 林英哲

こちらは、歌詞を歌う声はなく楽器のみの演奏ですが、各演奏家がそれぞれの楽器の特徴を活かし、素晴らしい合奏を奏でてくれています。願わくば生演奏を聞きたいところですが、実際にこれだけの人気演奏家の日程を調整して時間を合わせるだけでも通常は大変な作業であり、楽器の移動もせずリモート演奏に



することで、音楽の仲間達の時間の調整がしやすかったのかもしれない。これもニュー・ノーマルの一つになっていくのでしょうか。いずれにせよ、この素晴らしい音楽を作り出し、我々に届けてくれた方々に心から感謝を述べたいと思います。

和楽器奏者リモートスペシャルセッション「春よ、来い」
<https://www.youtube.com/watch?v=Vjl4sGLRkQE>